



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第43期第2号
2023年10月27日
発行者:小泉基



「背後におられる方」

岡田 薫



9月18日（月）待望の「沢知恵コンサート in とかち」が帯広駅前のレインボーホールで開催されました。きっかけは3年前、札幌のバプテスト教会で行われた胆振東部地震の復興イベントで、沢さんのピアノ弾き語りコンサートが行われたことです。新型コロナウィルス感染症が流行する中、この時は入場を関係者のみに制限し、日本全国はもとより、全世界に配信するかたちで行われました。帯広でも配信の観覧が行われ「いつの日か沢さんの歌声を生で聴きたい」との声が沸き起こり、賛同する3教会の牧師たちが準備会を発足。しかしながら動き出してみると話し合いの度にすり合わせが必要な点、手続き、様々な案件が出てきます。沢さんとのやり取りの中では、歌手としてのこだわりとゆるぎない信念が垣間見られることもあり、しっかりと対応できるだろうか…とくじけそうになったこともあります。そのたびに互いに祈り合い、必ずやふさわしい時が与えられると信じて待ちました。

多くの支えによって実現したこのコンサート。実は主催者が教会関係者であるにも関わらずあえてキリスト教色を前面に打ち出すことはしませんでした。その理由は長年の不況の上に、コロナ禍によって生活は一変。様々な制限が当たり前となり、その中で悩みや苦しみを味わった多くの方々に、愛と平和、いのちの大切さを歌う沢さんの歌声を聴いて欲しいという思いがあったからです。このような趣旨をご理解いただき、コンサートの内容・進行については歌手であり信仰者である沢さんにすべてお任せしました。

ご自身の生い立ちから今日までの歩み、ミャンマーの軍事クーデター、ロシア軍によるウクライナ侵攻、世界各地で頻発する自然災害…そして、差別や偏見に晒してきた人々との交わりを通して語られる一つひとつの言葉や歌。来場者の多くは沢知恵という一人のパフォーマーを通して、彼女の背後におられるお方の存在をしっかりと受け止めてくださったようでした。ディアコニアとは「仕えること」と訳されますが、自分に与えられた賜物を用いて神への信頼と愛によって奉仕することの喜びを、沢さんのコンサートを通してしみじみと感じさせていただきました。私たちにもそれぞれ賜物が与えられているはずです。その賜物を用いて、私たちの背後におられるお方と共に隣人に仕える者でありたいと願います。

各教会の近況報告

【函館教会】

岩崎 明子



毎年市内のある私立高校で夏休みに礼拝に出席するという宿題があり、函館教会にも多くの学生が来訪されます。今年も学生の為にキリスト教の基本的な教えである「愛」「讃美歌」「平和」「天国」について4週にわたり特別礼拝を行いました。この数年はコロナウィルスの影響で直接教会に訪れる学生は少なかったのですが、今年は酷暑の中累計164名の学生が出席してくれました。いわゆるZ世代である学生たち。この学生たちの健やかな成長とこれらの活躍を楽しみに思いつつ、いつか信仰に芽生え豊かな実がなることを切に祈ります。

そしてコロナ禍では数週間の土日のみの短時間開催でしたが、今年は礼拝後の午後にバザーを開催しました。準備の段階から衣服や日用品等のたくさんの献品があり、また教員の手作り手芸やケーキの提供もありました。当日は多くの方々が教会に足を運んで下さり、想像以上に大盛況でした。

ご協力して下さった中島牧師、教員や教員以外の方々に改めて感謝申し上げます。

振り返ると長年函館教会はZ世代に信仰の種蒔きを行ってきました。そして以前は毎年行っていたバザーを4年前に復活し工夫しながら続け今回も開催しましたが、これは教会に入る、十字架を目にする機会であり、この機会を設けることも種蒔きであると思います。このような役割を函館教会に与えられていることは喜びであり、感謝です。これからも神様のみ心に適う活動を継続し、信仰が芽吹くように祈り続けていきます。

【恵み野教会】

藤崎 福子

1985年9月15日に恵み野の地に開拓伝道が始まり、38年を経て現在まで地域に生かされた教会として献堂されました。この度は教区始め信徒の協力により10月から外壁工事が始まりました。12月の完成を待って地域の方々と共に喜び合えることをしたいと考えています。3年間はコロナ感染の心配があり、あらゆる行事を中止して参りましたが、今まで通りは難しくても、クリスマスに向けてクリスマスフェスタ、クリスマスミニバザー、来年はまた可能であればシンフォニエッタにコンサートをお願いしたいと考えています。これも地域の方から「人參ケーキが食べたいわ！」「子連れでも聴けるクラシックコンサートは素晴らしいわ！」の声に励まれ、信徒の力の出し方は変わっても、出来る範囲でまずは自分達が楽しく始められたらと希望を持って歩みたいです。教会が明るく楽しそうなら地域の方々も足を運んでくれることでしょう。何も出来なかつた3年間で恵みを頂くことを忘れていました。恵みを頂く礼拝。恵み野の地に立つ教会としてこれからも歩んで行きたいと思います。





いきますと、結果として7つもの屋台が出店してくださることとなり、園庭だけでなく、園庭へのアプローチまでお店が並ぶことになりました。また、園長先生が丁寧に園生や、教会学校の子どもたちにお手紙を書いて下さったおかげで、予想を遥かに上回る102人の子どもたちと、96人の保護者さんがおいで下さり、礼拝堂に入りきれず、受付に長蛇の列が並ぶほどの大盛況となりました。札幌教会としては、ひさしぶりに、ひとつの幼稚園・2人の牧師・3つの礼拝堂が力をあわせて取り組むことができた、大きな行事になりました。当日は、園庭での開催が危ぶまれるような小雨交じりの天候で、一部のプログラムを割愛しましたので、嬉しいフォークダンスを子どもたちと踊ることが出来ませんでしたけれども、それはまた次回の楽しみにしたいと思います。お祈り・ご協力下さいましたみなさんに、心よりお礼を申し上げます。

■3つの礼拝堂で、それぞれに学びのプログラムがはじまっています。新札幌では、毎月第4主日の礼拝後に、岡田牧師による聖書の学びが行われることになり、みんなの会で希望を伺った結果、ガラテヤ書を学ぶことになりました。礼拝が終わった後の短い時間ですが、礼拝に集ったみんなで、み言葉に聴くひとときを大切にしています。札幌礼拝堂では、ようやく9月から聖書の学びが再開されました。毎週木曜日の10:30から、ヨナ書の学びを12月頃まで続けていきます。参加者は、毎週5~6人で、旧約聖書の中での特異な位置づけのある、興味深いヨナ書を学びはじめたところです。北礼拝堂は、礼拝後の時間の持ち方を検討した結果、毎月第3主日の礼拝後を学びの時間とすることにしました。現在はこの時間に、アドベントから導入予定の新しい「式文の学び」を行っており、今後についてはまたこれから話しあわれる予定です。

■札幌教会では、今年のアドベントから新しい式文に挑戦すべく、それぞれの礼拝堂で、式文の学びと、式文の歌の練習に励んでいます。式文の学びでは、①礼拝の歴史について、②③現行式文とその内容、④新しい式文になって変更される点、について学びをすすめています。9月からは歌の練習もスタートしました。キリエ・グロリアからはじまって、毎週礼拝の後の短い時間を使い、導入までにみんなで歌声をあわせることが出来るように、少しづつ練習を重ねているところです。

■夏から秋にかけて、札幌教会の一番大きなイベントは、3礼拝堂とめえ幼稚園とが協力して開催した「夜の教会学校」でした。教会学校ではこれまで夏休みにキャンプを行ったり、またデイキャンプで1日を共に過ごすイベントを行ったりしてきたのですが、コロナのためにこの数年は開催できずにいたのです。どのような形なら、無理なく愉しい行事が開催できるか考え、夕方に教会学校の礼拝を行い、その後に3礼拝堂の有志と園とが可能な範囲で出店を出展する夏祭り形式の行事が計画されました。お手伝いしていただけそうな方々に声をかけて



■10/17(日)の礼拝後、教会の平岸墓地にて、今年度の墓前礼拝が行われました。昨年召天された奥貫せつさんの納骨式、西田ご夫妻のカロートの祈りと併せて行われたこともあり、恵み野教会からの方々を含めて、例年よりもたくさんの参列者とともに、信仰の先輩方を覚えて祈りのときを共にすることことができました。

■8/27(日)の札幌礼拝堂の主日礼拝に、小石川教会ろう者会の方々が参加なさいました。毎年計画しておられる修養会の訪問先として今年は札幌が選ばれたとのこと。引率は、札幌教会出身で、現在はルーテル教会の副議長の重責をも担っておられる滝田浩之牧師です。主日礼拝では、プロジェクトで式文や賛美歌を投射したり、手話通訳者が牧師の説教を通訳なさるなど、小石川教会でいつもなさっておられる形で、聞こえる人と聞こえない人が、ともに守る工夫が凝らされた礼拝となりました。その後スオミホールに移動し、交わりの時をもちました。

■7月30日、新札幌礼拝堂では春から礼拝を共にしてきた留学生、ステファン・ライリーさんの送別会が行われました。日本に留学されたお兄さんの影響で日本への興味を深められたステファンさん。大学卒業後には英語教師として再来日することを希望されています。しばしの別れを惜しみつつ、御心ならば主が再会の日を備えてくださると信じ祝福を祈りました。

【帯広教会】 有働 あけみ

7/16(日)帯広教会駐車場を会場に若緑町内会夏祭りが行われました。60名弱の参加があり、牧師と役員も参加して楽しい時を共に過ごすことができました。これを機会に地域に開かれた教会となれるようこれからも町内会との繋がりを大切にしたいと思います。

8/19(土)教区講壇交換で小泉基牧師が初めて主日礼拝(帯広)と浦幌集会で礼拝を担当して下さいました。昼食はご近所のカフェの美味しいお弁当で愛餐会



となり、親睦を深めあう良き機会となりました。小泉牧師は函館教会在籍中に教会の庭の花々200種類の写真を撮り名前と由来を調べ図鑑にされています。見せて頂き感動し、教会の庭に200種類の花々が咲くことに驚き、図鑑にされたことで更に驚きました(数名が図鑑を注文しています)。

9/18(月)沢知恵ピアノ弾き語りコンサートが行われました。十勝の3教会が中心となり数年間準備して実現しました。シンガーソングライターの沢さんはハンセン病療養所、災害被災地等で精力的に活躍されている方で、澄んだ歌声とパフォーマンスに感動でした。当日は150名弱のお客様と平和と命の大切さのメッセージを分かち合うことができました。あっという間に9月が過ぎ10月になり、十勝豆の作業の準備をはじめています。全国の諸教会の励ましを受けて、今年の主題「主が共におられる」を心にとめてこれから働きに皆と歩んで行きます。共に隣人に仕える者でありたいと願います。



北海道特別教区 2023 年度主題聖句

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」
「隣人を自分のように愛しなさい。」(マルコ 22:37,39)

今年度、北海道特別教区では「ディアコニア」へ思いを寄せるため、この主題聖句が選ばれました。「ディアコニア」とは「仕える」という意味の言葉であり、「神と人に仕え、人の救いのために、命を捧げる」イエスキリストの生き方が示されています。それに倣うわたしたちであります。ですが、「仕える」とはその方法は様々です。どこに、どのような思いで仕えるのか。そのことを 11 月 23 日(木・祝)の「教区 秋の集い」で学んでいきます。それに先んじて、ディアコニアの具体的な在り方として、二つの報告を紹介します。

めばえ幼稚園 近況報告

(園長 竹原 真理子)



めばえ幼稚園の二学期前半の大きな行事と言えば運動会です。

コロナ禍では園庭で各学年、時差で保護者も一人の参加で行いました。昨年はやっと人数制限(父母と兄弟のみ)はしましたが、幌西小学校のグランドでのびのび子ども達が躍動しました。今年こそコロナが5類に引き下げられ通常に行えると当日を迎えました。かけっこでは満3歳から6歳年長まで幼稚園とは違う広いグランドを駆け抜けました。未就園の子ども達も保護者

と一緒にまた抱っこされながら参加してくれました。小学生はお宝を見つけてゴールする難易度のあるかけこでしたが、教会学校の子ども達の姿も見られ和氣あいあいとした競技になりました。リズムも音楽に合わせ、各学年らしい姿を見せてくれました。満3歳と年少組は固まった子もいましたが、保護者の前に立っただけでも可愛さいっぱいの姿にご家族の皆さんは癒されたと思います。年中組は踊る事、見てもらう事が嬉しくてその姿に笑顔いっぱいの保護者席になりました。そして年長組、練習を重ねてきたよさこいの「ソイヤ」、緊張しながらも力を出し切った姿に感動を教えてくれました。

さあーこれからという時に不安が的中してしまいました。ここ数年の気候の変化には抗えず、豪雨に当たってしまいました。そんな中でも保護者の皆さんの理解と協力のおかげで、スムーズに体育館に移動して無事運動会を再開することが出来ました。そして、大人が移動している間子ども達は教師



達とテントの中で健気に待っていてくれました。豪雨の中不安な子どももいたでしょう。教師達の機転のきいた子ども達への関わりがあったからこそ、その後もスムーズに子ども達が運動会に参加出来たのだと思います。(歌を唄ったり、おやつを食べたりと子ども達を飽きさせずにいてくれました)



その後、保護者に見せる事が出来ない競技もありましたが、年長の紅白リレーは興奮と感動をみんなに与えてくれました。練習中、何回も負けて悔しく泣いたこともあります。勝って仲間と喜びあったこともあります。でも当日は嬉しさ、悔しさを乗り越えた全力を出し切った紅白リレーとなりました。最後のプログラムの親子ダンスでは子ども達と保護者の方達、そして観客の皆さんのが笑顔がそこにありました。

子ども達の胸に掛けた金メダルが輝いているのを見て「無事終わった」とほっとしている自分がいました。そして神様はすべてをご存じで守ってくださっていたことを感じたのでした。運動会の長い1日に子ども達に保護者の皆さんに観客の皆さんに、そして神様に感謝の1日となりました。

9月18日、北海道外キ連と日本キリスト教団北海教区諸委員会が共催した「夕張から歴史と平和を考えるフィールドワーク」が開催され、ルーテル教会から4名の牧師・信徒が参加しました。ルーテル教会も参加している北海道外キ連ですが、他教派の方々とともに、足元の歴史から平和を考える貴重なプログラム。札幌教会札幌北礼拝堂の京谷信代さんに報告を寄せて戴きました。

「夕張から歴史と平和を考えるフィールド・ワーク」に参加して

京谷信代

この企画には「炭鉱、強制連行、労務「慰安所」跡地、夕張の農村を訪ねて」という副題がついていて、大変興味をそぞろ参加しました。財政破綻の夕張のその後を見たかった。炭鉱の跡も見たかった。それにまつわる強制連行などの朝鮮人に対する人権問題にも関心がありました。参加者は道内から集まった日韓のキリスト者20名。

現地を案内して下さったのは、講師の渡辺輝夫牧師(日本キリスト教会夕張伝道所)で、教会を拠点に車で移動しました。夕張は四方を山に囲まれた山間の町で、財政破綻で疲弊した市街地を見ながら、炭鉱跡地のある炭鉱の歴史村からフィールド・ワークは始まりました。そこから案内されたのは、夕張神社でした。「参拝するのではありません。ここは皇民化教育の出発の地の神社なのです」。





強制連行・強制労働で炭鉱に送り込まれた朝鮮人が、ここで神社参拝を強要され、ここから皇民化教育が始まったのだと。その神社の後背地には、朝鮮人労働者が住む寮が建っていて、その近くには「朝鮮料理屋」とよばれた同胞相手の労務(産業)慰安婦の寮もあったという跡地を対岸の山から見学しました。強制連行は特に第2次大戦開戦後に急増し終戦の年には約12,000人の朝鮮人、約2,000人の中国人が強制労働に従事させられていたといいます。私は慰安婦というのは從軍慰安婦のことを指すのだばかりと思っていましたが、労務慰安婦という人たちがいたことを改めて知りました。全国慰安所の配置図を見せられ驚いたのは、圧倒的に北海道の産炭地と九州の産炭地が多いことでした。しかも慰安婦と呼ばれる女性たちは、女性と呼ぶには幼い20歳未満の女性たちだというのです。なんという痛ましい出来事でしょうか。言葉を失います。

その後案内されたのは、墓地でした。斜面の多い墓地の中腹に「神靈之墓」と書かれた墓碑がありました。昭和5年に夕張鉱寄宿舎朝鮮人有志が建立したもので、そこで追悼祈祷会を持ちました。「ガリラヤの風」の讃美歌をうたい、聖書からみ言葉を聞き、默想、そして追悼の祈り、主の祈りを持って祈祷会を終えました。午前のお話の総締めとして、亡くなられた多くの朝鮮人の方々を思い、その悲しい歴史を改めて思い起こしながら、二度とこのような過ちを起こしませんようにと祈らずにはいられませんでした。

午後は、小泉牧師がかかわっている「外国人住民基本法の制定を求める北海道キリスト教連絡協議会」(北海道外キ連)の取り組みと情勢報告がなされました。その後、渡辺牧師が出席(でめん・アルバイト)で働いておられた、夕張のメロン農家の実情をお話しくださいり、帰り道にその農家周辺を案内いただきました。(午後の部の詳細は紙面の都合で割愛させていただきました)

とても重い課題を、訥々と語ってくださる渡辺牧師。日本が犯したアジアの人々への罪責を、人権侵害の歴史を、現地で語り続けている牧師の姿に敬意を表したいと思いました。



日本福音ルーテル教会 2023
北海道特別教区 ハイブリッド

秋の集い

- 神と人に仕えるわたしたち -
ディアコニアの学び



教区の友がそれぞれの会堂に集い、わたしたちが神さまと人とに仕えるということの意味を、日本ルーテル神学校の江口再起先生から学びます。ディアコニアは、誰か特別の人のはたらきではなく、わたしたちが誰かを思って生きるということ。会堂からだけではなく、ご自宅からのZOOM参加も可能です。

とき：2023年11月23日(木・休) 10:00～12:00

ところ：札幌教会(札幌北・札幌・新札幌)

恵み野教会 帯広教会 函館教会

講師：江口再起先生(日本ルーテル神学校)

問い合わせ・申し込み：各教会牧師まで

*個人の参加は右QRコードから。またリンクの送付を希望される方は

前日までにsapporo@jclc.or.jpまでメールをお送り下さい。



6/23に発行した第43期第1号の4ページ「札幌教会」の欄に誤りがありましたので訂正して報告いたします。大変申し訳ありませんでした。

札幌礼拝堂 日曜10:30～
第1～3・5週 小泉基牧師
第4週 信徒礼拝（説教代読）



札幌礼拝堂 日曜10:30～
第1・2・4・5週 小泉基牧師
第3週 信徒礼拝（説教代読）